

ヤクシカ・ワーキンググループについて

1 ヤクシカ・ワーキンググループの設置の目的

厳正な保護を図るべき屋久島世界遺産地域においてヤクシカの採食等により森林の植生や希少植物の生育等に悪影響が出ていることから、世界遺産地域におけるヤクシカ被害について対策を講じるにあたり、科学的知見に基づいた助言を得ることを目的として、屋久島世界遺産地域科学委員会設置要綱第4条第5項に基づきヤクシカ・ワーキンググループを設置する。

2 ヤクシカ・ワーキンググループの構成

【科学委員会委員】

矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授(座長)
吉良 今朝芳	鹿児島大学元教授(副座長)
荒田 洋一	樹木医(屋久島在住)
立澤 史郎	北海道大学大学院文学研究科助教
松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

【特別委員】

手塚 賢至	ヤクタネゴヨウ調査隊代表(屋久島在住)
矢部 恒晶	森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ長
濱崎 伸一郎	(株)野生動物保護管理事務所関西分室長
杉浦 秀樹	京都大学野生動物研究センター准教授

3 経緯等

平成 22 年 7 月 28 日	平成 22 年度第 1 回屋久島世界遺産地域科学委員会においてヤクシカ・ワーキンググループの設置について承認
平成 22 年 10 月 15 日	第 1 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催
平成 22 年 12 月 22 日	第 2 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催
平成 23 年 6 月 19 日	第 3 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催
平成 23 年 12 月 17 日	第 4 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催
平成 24 年 6 月 21 日	第 5 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催

第 5 回ヤクシカ WG 議事概要

開催日時：平成 24 年 6 月 21 日（木）14 時～17 時

開催場所：鹿児島県屋久島町宮之浦 屋久島環境文化村センター

1. 第 4 回ヤクシカ WG における主な意見等について

第 4 回ヤクシカ WG で出された主な意見等について確認した。

2. 関係機関の取組状況について

九州地方環境事務所、九州森林管理局、鹿児島県、屋久島町、九州森林管理局・屋久島森林管理署・屋久島生物多様性保全協議会によりヤクシカの被害対策等の取り組みについて概要報告、質疑応答。

3. 地域別の保護管理対策について

(1) ヤクシカの個体数管理と生態系管理

南部、北東部を重点地域（モデル地域）として実施し、成功事例として投入労力等を検証し、他の地域で個体数管理する場合の目安とする。特に南部は、保護柵等の対策と捕獲を同時に行い、これ以上被害を拡大させない事が重要。合わせて国土保全の観点から西部の部分的な場所を捕獲対象試験地とすることも検討する。

ただし、捕獲の目的は、生態系や農林業被害を軽減させるのが目的で、遺産地域内では、特に生態系の維持・回復が重要になる。

屋久島全島における工程を打ち出す時期に来ていて、シミュレーション成果を反映しつつ、いつ、どこで、何を、どういう順応的管理の基に進めていくのか青写真を提示していく。

本格的な捕獲を進める場合、どうしてもネックになるのが利用や処分の問題であるため、有効利用の検討を進めていく。

(2) 植生・絶滅危惧植物の保護方策

希少種を守るため、保護柵設置とシカ捕獲とをバランスよく組合せて実施すること。保護柵は、安房林道沿い、尾之間歩道沿い、愛子岳標高 600m と 800m に必要だと思われるので検討してほしい。

(3) モニタリング計画

モニタリングは、各機関との連携が重要で、まずは、手法を統一し評価を一体化させる。

密度調査については、屋久島に適した糞の分解プログラムの検討が望まれる。簡易モニタリング手法の検討を行う。

4. その他について

(1) シャープシューティング等について

シャープシューティングは、里地の原野の限定された条件では効率が上がるが、屋久島を考えると、中央部では流し猟は困難な課題があり、山の上で餌付けして射主が撃つ方法など考えられる。しかし、屋久島には屋久島独特の環境とシカの特性があるので、他の事例にとらわれずに屋久島方式を創出する。

ただし、ライフルの使用が課題である。

(2) パンフレットの作成について

普及啓発用のパンフレットについて、必要性が高いので、写真や表や図を上手く組み込んだパンフレットにしてほしい。